



大阪活性化推進総研 ニュース

2015年1月1日
第6号

新年明けましておめでとうございます

この号の内容

- 1 講演と癒しのコンサートが終る
- 2 NHK大河ドラマとウォーキング
- 3 私とランニング
- 4 編集後記



「講演と癒しのコンサート」の開催

毎年秋の恒例イベントである「講演と癒しのコンサート」を次の通り開催しました。当日は220人を超えるご来場があり、席を急遽増やすなど、嬉しい熱気に包まれました。

- ・日時 平成26年10月18日(土) 14:00~16:30
- ・場所 大阪中央電気倶楽部
- ・演目

第1部 講演

「先人に学ぶ心の持ち方」
～高齢化社会を迎えて～
永島龍弘 遺跡本山観心寺 住職

第2部 癒しのコンサート

ソプラノ：柴田千恵子 ピアノ：大富 栄里子
曲目：浜辺の歌、初恋、落葉松、
オペラ「ジャンニ・スキッキ」「ラ・ポエーム」から等。

河内長野市の観心寺は、701年に役行者が開祖され、後に弘法大師空海が真言宗の道場とした歴史のある寺院です。盛大な拍手で現われた永島住職は、最初、軽く笑いをとりながら、釈尊の教えをベースとして、この弘法大師の教えと、当寺にゆかりの深い首塚がある楠木正成の考えと行動を手掛かりに、現代に生きるうえでのヒントを与えてくれました。

仏教の深い教義をわかりやすく説かれた後は、また、医者が私財を投じて63年前に設立された社会福祉法人に話が進みます。この理事長を25、6年前に引き継ぎ、70歳を契機に勇退したあとも老人ホームや保育園などの経営に携わり、広い人脈で、様々な社会との接点を持たれている観点から説得力のある言葉が繰り出されます。



「死は衣を着替える如し」と受け流し、これからの人生に対しては相手を幸せにする「利他行」をキーワードに、お洒落をして心豊かに、「キョウイク」「キョウヨウ」で外へ出て刺激を受けることが大事です。

五木寛之の書物に出てくる釈尊の教え『四苦八苦』や印度の人生四段階、特に林生期から遊生期への生活行動についての示唆もありました。

特に後半、自身の体験に即した話になると、北新地や祇園の話まで出て笑いにつつまれ、大いに共感を呼んで70分余りの講演を締めくくられました。



第2部「癒しのコンサート」は柴田千恵子さんのソプラノと大富栄里子さんのピアノで、日本の歌曲やオペラアリア、ショパンやドビュッシーのピアノ曲など全12曲が披露されました。

柴田さんは芸大の音楽科を卒業後、夫君の仕事で長く海外で生活。98年にやっと大阪・枚方市に腰を落ち着けられたため、あまりコンサート活動はしておられません。

しかし、プエルトリコ大学で世界的な専門家に発声法を学ばれたというそのお声は張りとう透明感があって美しく、失礼ながらとても還暦を過ぎた方とは思えません。来場者のほとんどがシニア層であるODIのコンサートには打って付けと思って人選しました。大富さんは高校や短大で教鞭を取り、FM放送にも出演しておられるピアニストで、柴田さんの紹介です。

ワインレッドのドレスで登場した柴田さん、まずは「浜辺の歌」「森の水車」「あざみの歌」といった懐かしい日本の歌から入られました。ソプラノの定番ともいえるヘンデルの「ラールゴ」や「私のお父さん」で雰囲気盛り上げた後、プッチーニのオペラ『ラ・ボエーム』から、高音で難度の高いアリア「私が街を歩くと」を、おきゃんな町娘ムゼッタさんながらに見事に歌い上げられました。大富さんのピアノ演奏をはさみ、最後はしっかりと日本歌曲の名曲「落葉松」で締めくくると、会場からはやんやの拍手。アンコールの代わりに来場者全員で「赤トンボ」を合唱して終わりました。

来場者アンケートでは95%が「大変よかった」「よかった」と答え、「日本の歌がとてもよかった」「心にしみるやさしいソプラノ、清々しいピアノに癒された」「本格的レベルで感動した」「美しい歌声にパワーをもらった」などの声が多数寄せられました。

NHK大河ドラマとウォーキング

会員 海上 健

毎回、大河ドラマの放映終了時には、二言三言のナレーションが流れます。10月12日の「黒田官兵衛」には、伊武雅刀演じる千利休が秀吉の命により切腹するシーンが出てきましたが、武内陶子さんは、ゆかりの「晴明神社」（京都）に触れ、実際にその画面が映し出されました。

晴明神社は文字通り、平安時代の陰陽師・安倍晴明を祀る神社ですが、境内には千利休の寿楽屋敷があり、同じ境内にある「晴明井」の水は千利休が茶の湯に用いたとされています。秀吉から切腹を命じられた利休は、自害する前の生涯最後の一杯を、この井戸の水を汲んで使いました。ここには産経新聞社の主催する関西ウォーク（25.11.30）で立ち寄りしましたが、私にはもう一つ目的がありました。

小金井にいる孫の高校受験です。中学校に入ってからサッカー・プロチームのジュニア・ユースで頑張ってきた本人が、自転車で20分の（サッカーではほぼ毎日往復3時間かけての練習でした）、文武両道の都立国立高校に憧れました。何しろ偏差値74の最難関です。年寄りとしてはこの際、神の加護が欠かせないと、晴明神社のお守りにすがる次第です。



お陰様で孫は志を遂げ、今年の高校サッカーでは残念ながら2回戦で敗退しましたが、来年こそは国立高校をベスト16（3回戦）には入れたいと、引き続き部活に夢中です。

安倍晴明さんには、この他にも二度関わっております。いずれもこの会（ODI）の信太森葛葉稲荷神社（和泉市・25.4.11）であり、安倍晴明神社（天王寺・23.11.15）です。前者にまつわる〈恋しくば 訪ね来て見よ 和泉なる信太の森の うらみ葛の葉〉は、「過にし世を静かに思え」（島崎藤村）とばかりに、想像力をかき立ててくれました。小金井の孫は、私の喜寿の年に今度は大学受験です。〈晴明さんは靈験あらたか〉を実感している私としては、再来年には天王寺の安倍晴明神社で、お守りをもらって来ようと思っております。

5月13日の伊丹行は、「有岡城と荒木村重」（パンフレット）を改めて勉強させてくれました。

案内してくれたボランティアの方に、家族と家来を捨て1人生き延びた村重を、今の伊丹の皆さんはどう思っておられるのでしょうか、とお尋ねしたところ、以前は批判的だったが、大河ドラマで取り上げられたこともあって、最近ではそれほどでもなし、むしろ信長の人間性に矛先が向かっているのが“床屋談義”のようです。

大河ドラマではずっと私は、信長は高橋幸治が一番と思っていましたが、今年の江口洋介君もなかなかのものでした。荒木村重に絡む場面では、京の六条河原で一族27人が処刑されたと知った村重が、どこかの庭先で大雨に打たれながら“悲憤慷慨”するシーンが印象的でした。村重を演じたのは、今やサスペンスや刑事もので活躍する田中哲司さんですが、最近仲間由紀恵さんと婚約しました。今年の紅白歌合戦の女性軍の司会は、仲間さんからどなたかに代わりましたが、田中さんとツーショットで顔を見せることを期待するとは、私も完全に“ミーハー”です。

最後に村重に関する後日談を紹介して、終わりとします。大阪城の天守閣には黒田長政（官兵衛の嫡男）が、岩佐又兵衛に描かせた「大坂夏の陣屏風」があるそうです。松坂桃李というイケメンが演じる長政（松寿）は、官兵衛が有岡城の土牢に入れられていた間には人質にされており、信長の命により殺されるところを、竹中半兵衛（谷原章介）の機転で救われました。又兵衛は村重の子で、有岡城落城の際には2歳でしたが、無事難を逃れ、母方の姓・岩佐を称し、長じて絵師となりました。官兵衛の幽閉中は、日々衰弱する官兵衛を励まし何かと世話を焼いた牢番（村重の家臣）の息子が、後に黒田家の家臣になりますが、この人が主君・長政から屏風の製作を命じられ、旧主・村重の子・又兵衛に白羽の矢を立てたものと思われまます。

私とランニング

理事 西田喜代志

いま2日に1回を目標に、ランニングをしている。雨や旅行、疲れなどで走らない日もあるから、年間150回ぐらいか。1回に1時間半前後、約15Kmの距離で、コースはいろいろである。始めたのは52歳からだから、もう20年以上になる。

きっかけは、ある銀行の支店長との酒席での会話からだった。当時、鹿児島テレビ局に出向していたのだが、その銀行の支店では鹿児島の温泉地、指宿で開催される「菜の花マラソン」の10Kmの部に支店ぐるみで参加、そのあと旅館で汗を流し、新年会を開くのが恒例だという。若い行員が多く、もちろん女子行員も走るそうだ。



「それはそれは、楽しそうですね」というと、「西田さんも走ってみませんか」と勧められた。私はかつて市内の中学対抗駅伝大会に出場し、少しは足に自信があった。以来、40年近く、走っていないが、酒の勢いで「走りましょう」と約束してしまった。

実に久しぶりの長距離。大会までの1ヶ月間、張り切って練習し、足を痛め、初レースは1時間15分ほどとサンザンな記録だった。だが、これで走る面白さを覚え、日常的に走るようになった。

テレビ局の始業時間は9時30分。家から局まで自転車で10分ほどと職住近接だから、早朝ランニングをし、帰って汗を流し、朝食をとって出勤しても楽に間に合った。

かくてランニングは生活に根を下ろし、2回目の「菜の花」は50分ほどで走れた。桜島のハーフや多くの自治体主催の10Kmなどにも参加し、4年目からの「菜の花」は10Kmからフルマラソンに切り替えた。フルの第1回目はなんとか5時間を切ったが、年々、記録はよくなり、最後の8回目には4時間10分近くまで短縮できた。練習は裏切らないというが、全くその通りである。

7年前、大阪に戻り、大阪マラソンや泉州国際マラソンも経験、宝塚や寝屋川、交野、池田、信太山などのハーフや10Kmなど、年に数回、レースに参加している。

走るのは楽しいかと問われれば、答えにくい。冬の寒さ、夏の暑さは辛いし、走ること自体、楽なはずはない。しかし、練習をサボると、やるべきことをやっていないと気持ちが悪い。反対に、汗だくで走り終わった時の達成感、充実感は気持ちがいい。爽快である。

だから、走っているとしかいえない。健康のためでなく、精神的充実のために走っているという気がしている。

ランニングは、私の人生とまでいわないが、生活を変えたのは確かである。あの支店長との出会い、誘いをありがたいと思っている。

編集後記

昨年末に消費税の増税が先送りされ、続く衆議院総選挙では与党の圧勝に終わったあわただしい1年でした。これからはアベノミクスの行方が気になるところです。未年の新年を迎えそれぞれに今年の抱負を立てられたことと思いますが、大きな夢、ささやかな夢などの実現に向けて新たな出発ですね。この10年教育と健康医療の事業に着実に実績を重ねてきましたODIも次の発展に向けて新たな活動を目指します。

そのためにも会員の皆様方からのご意見、ご要望を積極的に寄せて頂ければ幸いです。宜しく申し上げます。

(送付先：下記事務局)



NPO 大阪活性化推進総研 (ODI)

〒530-0005

大阪市北区中之島4-2-28

甲南アセット中之島ビル

TEL 070-5043-2507

E-mail npo-odi@nifty.com

URL <http://homepage2.nifty.com/Npo-Odi/>